

城郷地区

地域福祉保健計画

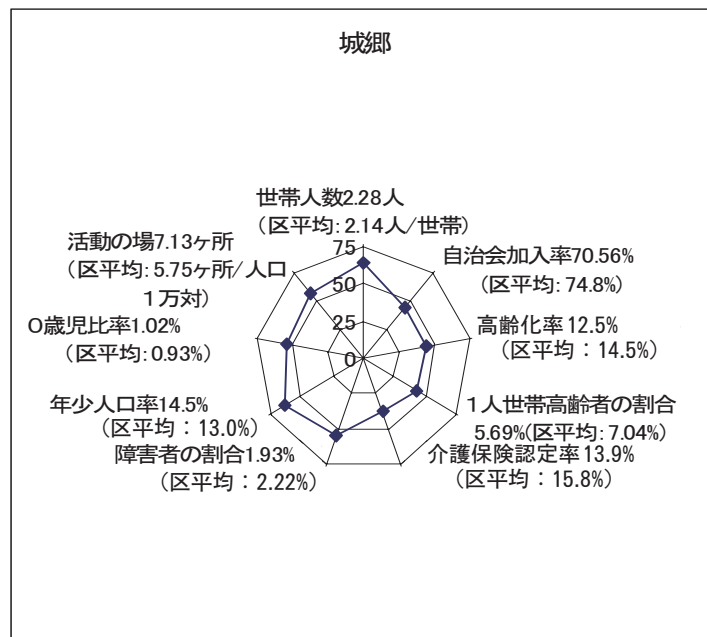
(計画期間：平成 18 年度～22 年度)

I 城郷地区の現状と課題

1 城郷地区の特徴

城郷地区は、小机町、烏山町、岸根町をその範囲としています。総人口は22,427人、老年人口よりも年少人口の方が多く、14歳以下の子どもの数は13地区の中で3番目に多い地区です。城郷地区には9つの自治会町内会があります。

城郷地区は畑や緑に恵まれています。JRの線路を挟んで北側と南側では地形が大きく異なり、線路の北側は平坦地が多く、南側の多くは起伏に富んだ地形で、坂道が多く見られます。また、農家や代々住んでいる人も見られますが、若い世代は他地域から転入者してきた人が増加しています。



2 城郷地区の課題

① 交流

○子どもから高齢者まで幅広い年代層が住んでいますが、新旧の住民どうしの交流が少なく人と人とのつながりが希薄になっていることから、声をかけ合える近所づきあいから進めていくことが望まれます。また、地域の中で短時間子どもを預かってくれる関係づくりが求められています。

○地域の障がい児者をめぐっては、障がいがない人とのふれあいの場が少ない、もっとふれあいの機会をたくさんつくっていくことが望まれています。障がい児者とその保護者は地域生活を送るためのさまざまなサポートを必要としています。これまで以上に、障がいのある人に対する理解と交流を進めていくことが求められます。また、障がい者が安心して働くことのできる場所に関する情報提供が必要です。

② 情報・相談

○高齢者、ひとり暮らし高齢者、要介護者、障がいのある人、子育て中の人など、情報を得にくい状況にある人への情報提供が重要です。また、回覧板は自治体からの情報が多く、地域の情報を得にくい・必要な情報が得られにくいという実状があります。

③ 場・拠点

○城郷地区は、平成16年8月に城郷小机地域ケアプラザと、地区住民が自由に使える広い場所のある城郷小机地区センターが開所・開館しましたが、中学生の遊び場・活動の場所が少ないという課題があります。

④ ボランティア・担い手

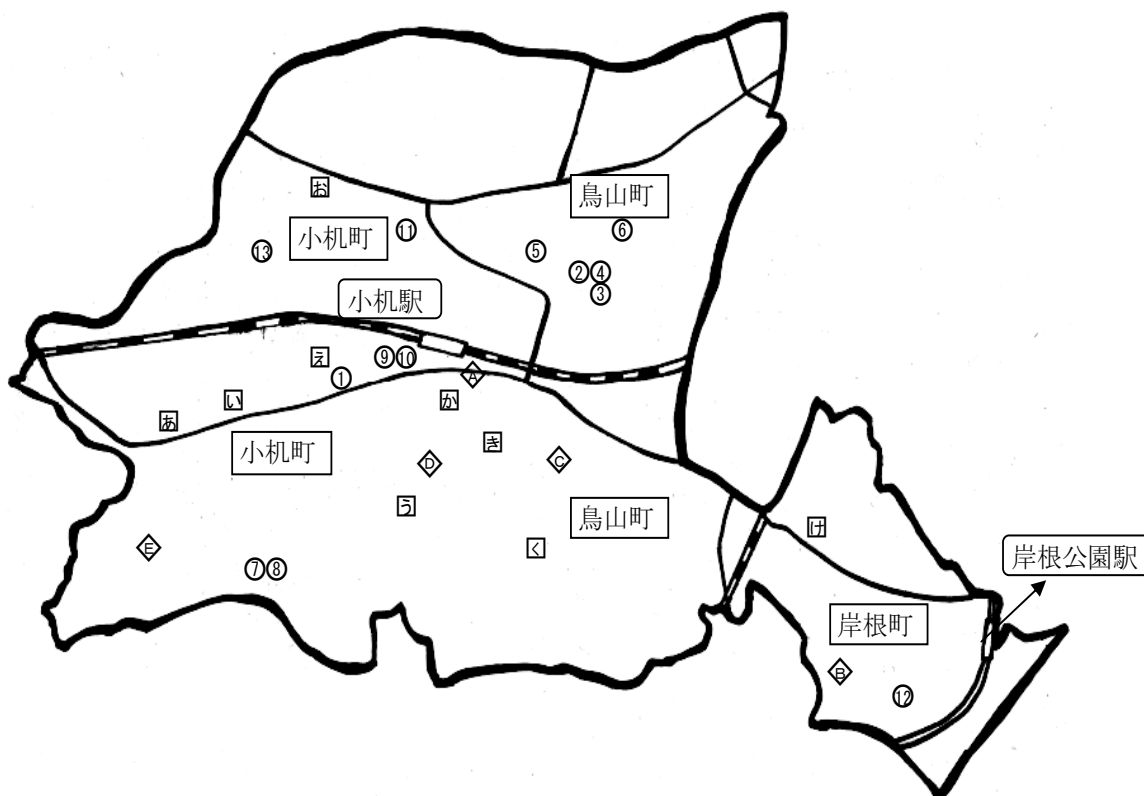
○誰もが安心して暮らすために、地域での支えあいが必要です。誰でもできるちょっとした声かけや手伝いととも、組織的なボランティア活動に加えて、ボランティアグループ同士の横の連携や情報交換が求められています。また、何かしてみたいと思っても地域にどのようなボランティアがあるか分からない市民も多く、ボランティアに関する情報を広げ

ていくことが求められています。特に男性には地域の活動に参加することやきっかけづくりに難しさを感じている人も多いことから、地域の活動やボランティア活動に入りやすい雰囲気づくりが必要です。

⑤ 安心・安全

○高齢者をめぐっては、交通の便が悪く、将来不安であるという声があります。また、道路の段差やバスの運行本数等が課題となっており、高齢者が外出しにくくなっています。

3 地域の拠点や福祉保健の取り組み状況



< 保育園・小中学校 >

No.	活動場所	活動の内容等 ・ 【活動団体名】
◇	ポピンズナーサリー小机	
◇	岸根保育園	・園庭開放
◇	市立城郷小学校	・学校開放
◇	市立小机小学校	・学校開放
◇	市立城郷中学校	・学校開放

< 自治会館・町内会館等 >

No.	活動場所	活動の内容等 ・ 【活動団体名】
⊗	大堀会館	・老人会（俳句や人形、ビーズ等種々の集い） 【大堀老人会】
□	小机堀崎町内会館	
□	小机土井町内会館	・育児サークル

No.	活動場所	活動の内容等 ・ 【活動団体名】
㊦	宿根会館	・ 育児サークル
㊧	矢之根会館	
㊨	小机愛宕会館	
㊩	小机東町会館	
㊪	鳥山町公民館	・ 鳥山赤ちゃん会 【区主催】 ・ 育児サークルの利用あり
㊫	岸根倶楽部	

<福祉施設・公共施設・ボランティアグループなどの活動場所>

No.	活動場所	活動の内容等 ・ 【活動団体名】
①	楠の木学園	・ 発達障がいや不登校、ひきこもりなどの若者の自立支援。放課後の居場所。【NPO 法人楠の木学園】
②	横浜市総合保健医療センター	・ 認知症鑑別診断等 ・ 介護老人保健施設（しらさぎ苑）併設
③	横浜ラポール	・ 障害者スポーツ文化施設
④	横浜市総合リハビリテーションセンター	・ 障害者（児）の施設（診療所・通所施設等） ・ 障害者更生相談所
⑤	スポーツ医科学センター	・ SPS（スポーツプログラムサービス） ・ スポーツ教室
⑥	海外勤務健康管理センター	・ 健康診断、予防接種、母子手帳英訳
⑦	障害者地域作業所ごぼうハウス	・ 身体障がい者のある人がクッキーづくりなどしていません。
⑧	グループホーム四季	・ 認知症高齢者の入所施設
⑨	城郷小机地区センター	・ 着付と茶道（茶道を通しての日頃のおつきあい、作法等、お楽しみの場合） 子育て支援者の相談（毎金曜日）【区主催】
⑩	城郷小机地域ケアプラザ	・ コーヒー喫茶【ごぼうハウス、楠の木学園主催】 ・ 配食・食事会【グループひまわり】 ・ ミニデイサービス「城郷ひろば」 ・ 太極拳（しろさと、天山、黄河） ・ こづくえ気功会（リフレッシュ体操） ・ 転倒骨折予防教室【地域ケアプラザ主催】 ・ 転倒骨折予防教室 OB 会(気楽会・花桜会) ・ 健康相談【同上主催】 ・ 介護者のつどい【同上主催】 ・ 介護者教室【区・地域ケアプラザ共催】 ・ 子育てサロン ・ 小机赤ちゃん会月 1 回開催【区主催】 ・ 子育てサークルリーダー会【区主催】 ・ 住民健診会場、胃ガン検診会場【区主催】

No.	活 動 場 所	活動の内容等 ・ 【活動団体名】
⑪	遊水地	
⑫	岸根公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング ・模型飛行機を飛ばす会 ・ラジオ体操の会
⑬	小机城址市民の森	・小机城址まつり（4月）【地区連合町内会】

その他の活動等
・マザーグースとして、赤ちゃんと就学前児童のあそび会を実施
・健康づくりのための温水プールでのウォーキング（スポーツコミュニティプラザ、日産ウォーターパーク）
・子育て中の親と子の交流を盛んにするために、子供会の会費を無料にして、3才以上の子どもを全て会員にしている自治会町内会があります
・高齢者同士の交流として、毎週土曜日にはカラオケ大会が行われており、また、健康づくり体操も行われています
・地域から、障がい者が働いている作業所に声かけをして、愛宕・宿根町内会が作業所と合同でお祭りに参加しています

Ⅱ 城郷地区の行動計画

1 城郷地区のスローガン

- (ア) 子育てしやすいまち 高齢者にやさしいまち 城郷
- (イ) 明るく元気で 安心・安全なまち 城郷
- (ウ) オアシス運動を実行できるまちにしよう
- (エ) 向こう3軒両隣の関係が機能しているまちにしよう
- (オ) ひとりひとりが地域の一員であるという意識をもったまちにしよう

※オアシス運動……地域に住む人たちが、日常的に「おはよう・ありがとう・しつれいしました・すみませんでした」という言葉を交し合うことによって、心が通い合う、明るい街づくりにつなげる運動。

2 行動計画（具体的な取り組み）

(1) 一人ひとりの市民自らの取り組み

- あいさつや声かけを心がけ、地域の中で顔の見える関係をつくっていきます。
- ひとり暮らしの人や新しく引っ越してきた人に声かけをするようにします。
- 町内会役員が先頭になって機能や役割を普及していきます。
- イベントなどがある時や防災訓練等の時には声かけを積極的に行い、障がい児・者と触れ合う場をもちます。
- 城郷小机地域ケアプラザや城郷小机地区センター利用し、住民どうしの交流を図ります。

城郷地区地域懇談会の様子



城郷地区地域懇談会

第1回 平成17年7月18日(月)

第2回 平成17年8月13日(土)

時間 午後2時～4時

場所 城郷地区センター

(2) 地域での取り組みとそれを支える取り組み

① 交流

今後の具体的な取り組み		H18	H19	H20	H21	H22
子どもどうしの交流や親どうしの交流の活発化のために	<地域・みんなの取り組み>					
	○常時、誰かがいて子育て中の人気が気軽に立ち寄れる場をつくりま		●			▶
	<市民を支える取り組み（事業者・団体、行政）>					
	○城郷小机地域ケアプラザが交流に有益な情報を収集し、提供できるようにします。	●				▶
世代間交流を進めるために	○ボランティア講座を開催し、人材を育成します。		●			▶
	○子どもの居場所をつくりま		●			▶
	<地域・みんなの取り組み>					
	○世代間の交流を呼びかけていきます。	検討				▶
障がい児・者への理解と交流を進めるために	○お茶を飲みながら話ができる場所を提供してくれる人を探します。	●				▶
	○商店街の空き店舗を利用して、イスを置き皆が集えるような場所を作ります。また、町内会館の活用やイベントをとおして皆が集まれる場所をつくりま	●				▶
	<市民を支える取り組み（事業者・団体、行政）>					
	○地域の商店街にイスを置いて休憩できる場所をつくりま	●				▶
高齢者の交流を進めるために	<地域・みんなの取り組み>					
	○障がい児・者やその保護者に対して地域の情報を提供していきま		●			▶
	○城郷小机地域ケアプラザ等の相談窓口を利用してもらえるようアピールしていきま		●			▶
	○健民祭等の時に声かけをし、企画の段階から一緒に内容に参加してもらえるように心がけま	検討				▶
高年齢者の交流を進めるために	<市民を支える取り組み（事業者・団体、行政）>					
	○地域の理解と交流が進むよう、積極的に市民への働きかけや情報提供を行うよう支援しま		●			▶
	○地域の人との交流を深めるために、障がい児・者の抱える課題等について勉強会等の機会をつくりま	●				▶
	<地域・みんなの取り組み>					
高齢者の交流を進めるために	○食事会を増やしま		●			▶
	○高齢者の「ミニサロン」や「ふれあいサロン」の場を増やしま	検討				▶
	<市民を支える取り組み（事業者・団体、行政）>					
	○交流の場や拠点づくりのため、地区社会福祉協議会が窓口や、パイプ役となり、関係事業者、団体、行政と連携して場づくりに心がけま	●				▶

② 情報・相談

今後の具体的な取り組み		H18	H19	H20	H21	H22
必要な情報が簡単・確実に入手できるように	<地域・みんなの取り組み>					
	○地域で行っている活動の情報を皆で共有します。	検討				→
	○「向こう3軒両隣」の仕組みを具体的に作ります。	検討				→
	○回覧板ネットワークを活用し、住民に情報がゆきわたるようにします。					▶
	○回覧板を見ない人が多いため、見やすい回覧板にしていきます。	検討				→
身近な場でいろいろな相談ができるために	<地域・みんなの取り組み>					
	○地域の中の専門職の方に協力を依頼していろいろな相談ができるような仕組みをつくりま	検討				→

③ ボランティア・担い手

今後の具体的な取り組み		H18	H19	H20	H21	H22
ボランティアの育成のために	<地域・みんなの取り組み>					
	○城郷地区のボランティア連絡会を作り、拠点とします。					▶
	○ボランティアをしたいと思った人が登録できる制度や相談窓口を作ります。					▶
	○定年退職前後の年齢の人がボランティア活動に積極的に取り組めるようにします。					▶
	<市民を支える取り組み（事業者・団体、行政）>					
	○地区社会福祉協議会がボランティアの育成の取り組みを支援するように心がけます。					▶
ボランティアに関する情報を広げていくために	<地域・みんなの取り組み>					
	○ボランティアに関する情報を集め、自治会町内会組織を通して情報提供を行います。					▶
	○城郷小机地域ケアプラザ等が出すチラシにボランティアの募集記事を掲載します。					▶
	<市民を支える取り組み（事業者・団体、行政）>					
	○地区社会福祉協議会がボランティアに関する情報を広げていく取り組みを支援するように心がけます					▶